

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-42

学校名・団体名	羽島市立正木小学校
HPアドレス	http://www.hashima-gifu.ed.jp/~masakie/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	大規模校における特別支援教育 「共生共育」をめざして
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のため、県内では、第2次岐阜県教育ビジョンの基本目標1「確かな学力の育成と多様なニーズに対応した教育の推進」に向け、特別支援教育の充実が図られている。</p> <p>本校の学校経営方針「共生共育」（造語）の具現に向けて、特別支援教育コーディネーターとしての校内の支援体制の充実を図ることが第一の目的である（A分野）。また、本校に設置される通級指導教室（わかば教室）で、LDやADHDについての確かな理解と有効な支援の研究実践を行い、通級指導教室の充実を図ることが第2の目的である（B分野）。</p> <p>以上2点を同時進行で進め、「必要な子どもに必要な支援ができる」システムを整備し、一人一人が自分らしさを発揮し、仲間と共に生き生きと学習できる学校経営と特別支援教育に貢献したい。</p>	

<活動・研究報告>

1 活動・研究報告（概略）

	A分野「全校での組織的な取組」	B分野「通級指導教室での取組」
研修 「学ぶ」	①ア 事例研究会(8月27日) ①イ 特別支援教育推進に関する研修会 (9月15日・10月23日・ 1月20日)	①ア 研究大会への参加 (8月7日・12月18日・12月19日) ①イ 先進校の視察(11月9日)
教育実践 「行う」	②ア 特別な教育的支援が必要な児童の 整理及び適切な発達検査の実施 ②イ 保護者との教育相談の推進 ②ウ 校内の支援体制づくり (支援員の配置, 関係諸機関との連携) ※全校を対象に6月～2月に実施。	②ア かかわり合う力(心理的安定・人間関係 の形成・コミュニケーション)を育てる 指導法の研究実践(6月～2月に実施) ②イ アセスメント・バッテリーによる個の認 知特性の理解と, それを生かした学び方 支援の研究実践(6月～2月に実施)
提案 「広げる」	③ 校内支援体制作りの実践のまとめ・岐 阜県の研修会で発表(1月18日)	③ 通級指導教室における指導のあり方を研究 のまとめと発表(1月18日)

2 活動報告（詳細内容及び成果）

A分野 「全校での組織的な取組」

○ 職員校内研修会の実施（8月27日）

天外メンタルクリニックの杉田憲夫医師（精神科医）を講師に招き、校内職員研修会を行った。発達障がい の定義は、医学界でも流動的であること。障がい の有無にかかわらず、一人一人を大切な人間として接していく姿勢が大切であることについて学んだ。また、質問形式で児童の事例検討を行い、それぞれに対する基本的な対応方針についても指導を受けた。確かな理解の有効な支援についての在り方がよく分かり、教師が安心して自信をもって指導・支援に臨むことに繋がる研修会となった。

○ 保護者・児童との特別支援教育相談の実施（通年、10月5日～9日及び12月21日～24日）

児童と保護者の困り感に寄り添い、安心して学校生活を送ることができるよう、保護者・児童との教育相談を随時行った。また、大規模校であるため重点実施期間を設け、学級担任と連携し力強く推進できるように工夫した。

保護者は、養育や学習、本人への障がい特性への対応の仕方など年間36件の様々な相談を行った。それぞれの事例について、児童との教育相談の時間を設け発達検査を実施することで、具体的姿と客観的データの両面からアセスメントすることが可能になり、確かな理解と有効な支援に繋げることができた。

特に、本助成金で購入したNCプログラム、J. c o s s 日本語理解テスト、PVT-R絵画語彙発達検査、URAWS Sを活用することで、発達障がい のアセスメントをより幅広く行うことが可能になり、児童一人一人への理解と支援に役立てることができた。

B分野 「通級指導教室での取組」

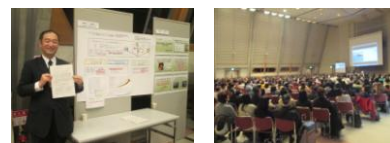
○ 研究大会への参加

（8月7日 東海北陸特別支援教育研究大会 静岡大会）

（12月18日・19日 ATACカンファランス2015京都）

東海北陸特別支援教育研究大会静岡大会では、学校教育の中の特別支援教育という枠組みで、小学校・中学校・特別支援学校それぞれの校種での実践を広く研修できた。知的障がい・情緒障がい特別支援学級や通級指導、特別支援学校の重度重複障がい児指導など、広く特別支援教育の現状と課題を把握することができた。また、他県の職員と実践を交流することで、勤務校での実践研究の工夫・改善について役立てることができた。

ATACカンファランス2015京都では、教育・福祉・情報技術・人間工学など幅広く学際的な視野から、特別な教育的支援について考えることができた。また、選考・採用された実践のポスター発表では、助成金で制作した、「通級及びコーディネーター実践ガイド」を170部配付し、本研究実践の情報発信と通級指導及びコーディネーターの在り方について全国の関係者と意見を交わすことができた。



< 総括 >

ちゅうでん教育振興助成をいただくことで、これまで十分にできなかった特別支援教育の充実をより力強く進め、「共生共育」の具現に向けた研究実践が実現できました。兼務が極めて困難な大規模校の校内支援体制の充実（A分野）と、通級指導教室（わかば教室）の指導の充実を同時進行で行い、自分らしさを発揮し、仲間と共にいきいきと学習できる子どもの笑顔に結ぶ実践へのご支援に感謝しております。